

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5940m以上の亜熱帯高気圧に対応して、四国の南をゆっくり西に移動する地上の高気圧縁辺を回る下層暖湿気の影響で、沖縄近海では激しい雨を解析。
- ② ①の高気圧と日本のはるか東の高気圧及びサハリン付近を南東に移動する高気圧の間で、北～東日本は気圧の谷となっている。
- ③ 東日本日本海側を南下する300hPaで-33℃の寒気を伴うトラフや①の亜熱帯高気圧北縁を回る正渦度移流の影響で、北～東日本では1時間に5～10mmの雨を解析。
- ④ 南鳥島近海を今後24時間以内に台風が発達する見込みの熱帯低気圧がゆっくり北西進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の高気圧は、4日にかけて東シナ海に中心を移す。1項②のサハリン付近の高気圧は、2日は千島近海に、3日は日本のはるか東に移動して、日本のはるか東に停滞する高気圧と一体化する。
- ② 2項①の高気圧に覆われて、本州付近と南西諸島では4日にかけて、晴れて気温が上昇し広く真夏日となり、猛暑日となる所がある。熱中症などの健康管理に注意（熱中症警戒アラート参照）。
- ③ 3日はじめにかけて、北～東日本は気圧の谷となり、1項③のトラフが東日本付近を南下する。
- ④ 本州付近と南西諸島では4日にかけて、気圧の谷に向かう下層暖湿気や高気圧の縁辺を回る下層暖湿気、日中の昇温、上空寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。東日本では、これまでの大雨の影響で地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に注意・警戒し、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。
- ⑤ 4日は、500hPa 5700m付近のトラフに対応する低気圧が、サハリン付近からオホーツク海に進み、500hPa 5760m付近のトラフに対応する低気圧が沿海州付近から北海道付近に進む。低気圧に向かう下層暖湿気の影響で、4日は大気の状態が不安定となり、雷を伴った激しい雨が降り大雨となる所がある。また、低気圧周辺では気圧の傾きが大きくなり、3～4日は強い風が吹き、波が高くなる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風、強風や高波に注意。
- ⑥ 1項④の熱帯低気圧は、24時間以内に台風発達し、3日にかけて小笠原近海を北西進する。小笠原諸島では、大気の状態が不安定となる所がある。また、気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹いて波が高くなる所がある。小笠原諸島では3日は、落雷や突風、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- ## 4. 防災関連事項【量的予報等】
- ① 雨量(06時からの24時間)：関東甲信・東海100mm。
 - ② 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。
 - ③ 高潮(明日まで)：東日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「雷と突風及び降ひょうに関する全般気象情報」を5時頃に発表予定。